

講義要項(シラバス)

年 度			2023年度			時 期		前期		学 年		1	
学 科			介護福祉科			講義時間		時間割参照					
科目名			人間の尊厳と自立			講義曜日		時間割参照		講義回数		15	
						単位時間数		30		単位数		2	
講師名			原田 由美子			実務経験		介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務					
講義目標			一般目標										
			人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。										
講義目標			到達目標										
			・「人間の尊厳」が守られている(守られていない)体験(事例)と、自分の意見を表現できる。 ・「人権」について法や条文を基に身近な事例を示し、自分の意見を表現できる。 ・「自立」と「自立生活」の内容と具体的な事例を示し、対する介護実践例を説明できる。 ・複数の自立支援の方法を、実際の行動例と根拠となる介護福祉士の価値を説明できる。										
回数	月 日		講義内容			回数	月 日		講義内容				
1			人間の尊厳			11			権利擁護②				
2			利用者主体			12			自立の概念の多様性				
3			人権思想			13			自立とは				
4			日本の諸規定			14			自立支援				
5			人権・福祉理念の変遷①			15			尊厳の保持と自立支援				
6			人権・福祉理念の変遷②			16							
7			人権・福祉理念の変遷③			17							
8			人権・福祉理念の変遷④			18							
9			人権尊重			19							
10			権利擁護①			20							

講義方法 講義、演習
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 期末試験70%、レポート20%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版
参考書 福祉小六法 2022
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度		時 期	前期	学 年	1	
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照			
科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ		講義曜日	時間割参照	講義回数	15	
			単位時間数	30	単位数	2	
講師名	原田 由美子		実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務			
講義目標		一般目標					
		対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。					
		到達目標					
		・「よく観る」「よく聴く」「受けとめる」ことが表現でき、対人関係の創生を「面白がる(愉しむ)」ことができる。 ・自己覚知を前提に、認め合い与えあう感情などの表出ができる。					
回数	月 日		講義内容	回数	月 日		講義内容
1			人間らしさのはじまり	11			援助的人間関係の形成とバ이스テックの7つの原則①
2			自分と他者の理解	12			援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則②
3			発達心理学からみた人間関係	13			組織の条件とコミュニケーションの特徴
4			社会心理学からみた人間関係	14			組織における情報の流れ
5			人間関係とストレス	15			組織において求められるコミュニケーション
6			第1節まとめ	16			
7			コミュニケーションの概念・基本構造	17			
8			コミュニケーションの手段	18			
9			対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	19			
10			対人援助における基本的態度	20			

講義方法 講義、演習、小テスト
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 期末試験90%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版
参考書
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度		時 期	後期	学 年	1		
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照				
科目名	社会の理解 I		講義曜日	時間割参照	講義回数	15		
			単位時間数	30	単位数	2		
講師名	原田 由美子		実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務				
講義目標			一般目標					
			個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。					
講義目標			到達目標					
			・利用者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアについて基礎的な知識を習得することができる。 ・日本の社会保障の基本的なしくみについて理解することができる。					
回数	月 日		講義内容		回数	月 日	講義内容	
1			生活を幅広くとらえる		11			社会保障制度～年金保険～
2			ライフスタイルの変化		12			社会保障制度～医療保険～
3			家族の機能と役割		13			社会保障制度～その他～
4			社会・組織の機能と役割		14			社会保障関係費
5			地域・地域社会、地域社会における社会支援		15			社会保障給付費
6			地域福祉の発展		16			
7			地域共生社会・地域包括ケア		17			
8			社会保障①		18			
9			社会保障②		19			
10			日本の社会保障制度の発達		20			

講義方法 講義、演習、小テスト(毎回最後に実施)
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版
参考書 福祉小六法 2022
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度	時 期		前期	学 年	1
学 科		介護福祉科	講義時間		時間割参照		
科目名		介護の基本Ⅰ	講義曜日		時間割参照	講義回数	30
			単位時間数		60	単位数	4
講師名		原田 由美子	実務経験		介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務		
講義目標		一般目標					
		介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
		到達目標 ・「尊厳の保持」「自立支援」の介護の基本理念の実現に対し具体的な生活課題とその対策を考察できる。 ・社会福祉士及び介護福祉士法を理解し、実践の場で介護福祉士が果たすべき役割を述べることができる。 ・介護福祉の専門性と倫理を理解し、求められる専門職としての態度について学習場面での実践を考察できる。 ・ICFの視点でのアセスメントを理解し、環境整備や介護予防を踏まえた利用者の自立と生活支援のあり方について考察できる。					
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容		
1		介護の成り立ち①	21		自立支援③		
2		介護の成り立ち②	22		演習		
3		介護の概念の変遷①	23		ICF①		
4		介護の概念の変遷②	24		ICF②		
5		介護福祉の基本理念	25		ICF③		
6		介護福祉士の活動の場①	26		演習		
7		介護福祉士の活動の場②	27		自立支援と介護予防①		
8		介護福祉士法①	28		自立支援と介護予防②		
9		介護福祉士法②	29		自立支援と介護予防③		
10		カリキュラム変遷①	30		演習		
11		カリキュラム変遷②	31				
12		支える団体①	32				
13		支える団体②	33				
14		介護福祉士の倫理①	34				
15		介護福祉士の倫理②	35				
16		介護福祉士の倫理③	36				
17		介護福祉士倫理綱領①	37				
18		介護福祉士倫理綱領②	38				
19		自立支援①	39				
20		自立支援②	40				

講義方法 講義、演習、小テスト(4回)
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第2版
参考書 福祉小六法2022 ※使用する参考書は適宜指示
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度		時 期	後期	学 年	1
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本Ⅱ		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
			単位時間数	60	単位数	4
講師名	原田 由美子		実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務		
講義目標	一般目標					
	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
講義目標	到達目標					
	・介護を必要とする人の個性性と多様性について理解し、居宅・施設における生活支援について考察できる。 ・個々の利用者の生活の多様性とや社会との関わりから「その人らしさ」を支援する意義について述べることができる。 ・各種サービスの内容を理解し、他職種の専門性や役割と機能から介護福祉士の連携・協働のあり方について考察できる。 ・介護を必要とする人が地域での生活を継続するためにフォーマル・インフォーマルな資源を利用した支援のあり方について介護福祉士の役割として述べることができる。					
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容	
1		生活とは何か	21		高齢者・障害者のフォーマルサービス①	
2		演習	22		高齢者・障害者のフォーマルサービス②	
3		高齢者の暮らし①	23		インフォーマルサービス	
4		高齢者の暮らし②	24		地域連携機関①	
5		障害者の暮らし①	25		地域連携機関②	
6		障害者の暮らし②	26		地域連携機関③	
7		障害者の暮らし③	27		地域連携の実際①	
8		その人らしさとは何か①	28		地域連携の実際②	
9		その人らしさとは何か②	29		わたしの介護福祉士像①	
10		生活ニーズ①	30		わたしの介護福祉士像②	
11		生活ニーズ②	31			
12		生活のしづらさ	32			
13		生活のしづらさへの支援	33			
14		第1章まとめ	34			
15		高齢者のフォーマルサービス①	35			
16		高齢者のフォーマルサービス②	36			
17		高齢者のフォーマルサービス③	37			
18		障害者のフォーマルサービス①	38			
19		障害者のフォーマルサービス②	39			
20		障害者のフォーマルサービス③	40			

講義方法 講義、演習、小テスト
講義で使用する機器・教材 ipad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 期末試験50%、小テスト30%、レポート10%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版
参考書 ※使用する参考書は適宜指示
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標 介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うため、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を理解する。				
	到達目標 ・介護におけるコミュニケーション技術を理解し実践できる。 ・言語・非言語・準言語コミュニケーションを意図的に使いこなせる。 ・介護福祉職は家族と協働していく支援のパートナーであることを理解できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		オリエンテーション／コミュニケーションとは	9		コミュニケーション総合演習 準備
2		コミュニケーションの意義と目的	10		コミュニケーション総合演習 振り返り
3		コミュニケーションの基本	11		動機付け・ものの見方・意思決定
4		バイステックの7原則／SOLER	12		家族とのコミュニケーション
5		繰り返しの技法／質問の技法	13		家族とのコミュニケーション
6		要約の技法／沈黙すること	14		ここまでの振り返り
7		言語・非言語・準言語コミュニケーション	15		確認テスト・振り返り
8		コミュニケーション総合演習 準備			

講義方法

座学・演習(グループワーク)

講義で使用する機器・教材

ipad必須

履修上の注意事項

質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること

成績評価方法

期末試験100%(60点未満は再試験の対象とする)

野呂80% + 菅原20% =100%で総合評価を行う

教科書

最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

・他科目と連動する内容があるため、当科目だけで終結せずに関連付けする必要がある。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023(令和5)年度	時 期		前期	学 年	1年
学 科		介護福祉科	講義時間		時間割参照		
科目名		コミュニケーション技術Ⅰ(手話)	講義曜日	時間割参照	講義回数		15
			単位時間数	30	単位数		2
講師名		菅原 伸哉	実務経験		手話講師 15年以上		
講義目標		一般目標					
		聴覚障害者とのコミュニケーションを円滑にし、介護従事者として対応できる。					
		到達目標					
		・聴覚障害者について理解する					
		・基礎的な手話を習得する					
		・聴覚障害者とのコミュニケーション技法について理解、習得する					
回数	月 日	講義内容		回数	月 日	講義内容	
1		名前を紹介しましょう		11		簡単な会話	
2		数字を使って話しましょう①		12		講義「コミュニケーション方法」	
3		家族について話しましょう		13		講義「聴覚障害者の生活」	
4		趣味や仕事について話しましょう		14		復習まとめ	
5		あなたの家を紹介しましょう		15		まとめ	
6		「どこ?」の会話をしましょう		16			
7		自己紹介まとめ		17			
8		時の表し方を覚えましょう		18			
9		〇〇会のお知らせについて話しましょう		19			
10		接客手話		20			

講義方法

座学および演習にて行う

講義で使用する機器・教材**履修上の注意事項**

遅刻・欠席がないことが望ましい。

成績評価方法

期末試験70% 受講態度30%

野呂80% + 菅原20% =100%で総合評価を行う

教科書

今日からはじめる、やさしい手話

参考書**予習復習のアドバイス**

・コミュニケーション技術Ⅰ、生活支援技術と関連付けた学習を行う

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)		時 期	前期	学 年	1
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	44/60	
		単位時間数	88/120	単位数	3	
講師名	野呂 勇介		実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標					
	生活とは何かを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。					
	生活全体を理解した上で、利用者の潜在能力を引き出し、どのように支援するかが適切かを考え、それを提供していく能力を身につける。					
	自立支援の観点から、その知識・技術が展開できる能力を養うとともに、利用者の生活の質の向上を考えた援助技術を理解する。					
	到達目標					
	・生活支援を理解し、そのあり方を考えることができる					
	・居住環境、衛生管理について理解し、その方法を習得する					
	・身じたくの介護についてその意義・目的を理解し、その方法と技術を習得することができる					
・入浴の意義・目的を理解した上で、その介護方法について習得するとともに、それに伴う移動の技術を習得する						
・口腔衛生について理解し、介助方法とその技術を習得する						
・食事についてどのように支援すべきかその技術を習得する						
・排泄についてどのように支援すべきかその技術を習得する						
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容	
1		オリエンテーション～生活支援技術全体像の理解～	23		中間テスト(筆記・返却・復習)	
2		生活支援とは(P2～11)	24		食事の意義と目的(生ⅡP74～101)	
3		居室環境の理解と寝具の衛生管理時の留意点(生ⅡP227～)	25		食事の介護における多職種連携(生ⅡP96～101)	
4		寝具の理解と介護ロボット(協力:パラマウントベッド)	26		食事の介助方法	
5		寝具の理解と介護ロボット(協力:パラマウントベッド)	27		食事の介助方法	
6		寝具の衛生管理の技術	28		入浴・清潔の介護の意義と目的(生ⅡP104～111)	
7		寝具の衛生管理の技術	29		足浴・手浴・洗髪の知識と技術(生ⅡP134～144)	
8		寝具の衛生管理の技術	30		入浴介助(女性:入浴 男性:清拭)	
9		寝具の衛生管理の技術	31		入浴介助(女性:清拭 男性:入浴)	
10		ベッドメイキング 実技試験	32		訪問入浴介助の実際(協力:アースサポート)	
11		ベッドメイキング 実技試験	33		訪問入浴介助の実際(協力:アースサポート)	
12		身じたくの意義と目的(生ⅡP2～7、P66～70)	34		自立した排泄の理解(生ⅡP158～164)	
13		洗顔・整髪の知識と介助技術(生ⅡP8～21)	35		排尿・排泄障害の理解(生ⅡP194～207)	
14		髭剃り・爪・耳の手入れ関する知識と介護技術(生ⅡP21～28)①	36		排泄の介助 おむつ使用者への介助(協力:ユニ・チャーム)	
15		口腔衛生に関する知識と介助技術(生ⅡP28～40)①	37		排泄の介助 おむつ使用者への介助(協力:ユニ・チャーム)	
16		衣服に関する知識と着脱介助技術(生Ⅱ47～64)①	38		排泄の介助 ポータブルトイレ・トイレでの介助	
17		身だしなみの支援練習	39		排泄の介助 尿器・差し込み便器	
18		身だしなみの支援練習	40		実技総合	
19		身だしなみの支援練習	41		実技総合	
20		身だしなみ 実技試験	42		実技試験 (総合)	
21		身だしなみ 実技試験	43		実技試験 (総合)	
22		中間テスト(筆記・返却・復習)	44		実技試験 (総合)	

講義方法 テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う 各実習室を使用して実技演習を行う
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する ・教室及び各実習室を使用し、実際に演習を行う授業であるため、<u>演習時には基本的に実習着(ユニフォーム)を着用することとなる。身だしなみを整え出席すること。</u> ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること ・提出物の提出期限に注意すること
成績評価方法 実技:40% 筆記:40%(内訳:中間50%+期末50%) 授業態度(出席率、整容、取り組む姿勢等を評価) 20% ※野呂 80%、高橋 20%としてその合計を最終評価とする。
教科書 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ(中央法規出版) 参考書 適宜指示
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読んでおく ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく ・<u>実技演習の時間は限られているため、各自復習すること</u>

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度(令和5年度)		時 期		前期		学 年		1	
学 科		介護福祉科		講義時間		時間割参照					
科目名		生活支援技術Ⅰ		講義曜日		時間割参照		講義回数		16/60	
				単位時間数		32/120		単位数		1	
講師名		高橋 敦志		実務経験		サ高住施設長 兼 ヘルパーステーション管理者					
講義目標		一般目標									
		生活とは何かを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。生活全体を理解した上で、利用者の潜在能力を引き出し、どのように支援するところが適切かを考え、それを提供していく能力を身につける。自立支援の観点から、その知識・技術が展開できる能力を養うとともに、利用者の生活の質の向上を考えた援助技術を学ぶ。									
		到達目標									
		・残存機能の活用について理解し、状態に合わせた支援が展開できる。									
		・起居・移動についてどのように支援すべきか学び、その技術を習得する。									
		・利用者のQOL向上と起居・移動の関係について理解し、説明できる。									
回数	月 日	講義内容			回数	月 日	講義内容				
1		移動の意義と目的			9		移乗介助 ベッド～車椅子(全介助)				
2		体位変換の介助			10		移乗介助 車椅子～ベッド(全介助)				
3		起居動作			11		移乗介助 福祉用具の活用				
4		移動介助 歩行～杖歩行			12		移乗介助 福祉用具の活用②				
5		移動介助 車椅子(室内)			13		移乗介助 布団～車椅子				
6		移動介助 車椅子(屋外)			14		移乗介助 車椅子～布団				
7		移乗介助 ベッド～車椅子(一部介助)			15		実技試験				
8		移乗介助 車椅子～ベッド(一部介助)			16		実技試験				

講義方法

テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う
グループワークの実施

講義で使用する機器・教材

iPad必須

履修上の注意事項

- ・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する
- ・教室及び各実習室を使用し、実際に演習を行う授業であるため、演習時には基本的に実習着(ユニフォーム)を着用することとなる。身だしなみを整え出席すること。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること
- ・提出物の提出期限に注意すること

成績評価方法

筆記60% 実技40%

※野呂80%、高橋20%としてその合計を最終評価とする。

教科書

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規出版）

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく
- ・実技演習の時間は限られているため、各自復習すること

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	後期	学 年	1
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅱ (睡眠)	講義曜日	時間割参照	講義回数	⑦/15
		単位時間数	14/30	単位数	1
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	睡眠・休息の意義、目的を理解し、具体的に根拠ある介護を展開できる。また、終末期における要介護者・家族の心理的援助を理解する。				
	到達目標 ・睡眠・休息のアセスメントに係る知識の習得および具体的介護方法の習得 ・終末期介護の倫理と具体的介護方法、家族援助の理解				

回数	月 日	講義内容
1		睡眠の意義と目的
2		睡眠の介護の基本
3		睡眠に関するアセスメントと目標設定
4		安眠のための介護①
5		安眠のための介護②
6		安眠を促す介助の技法①
7		安眠を促す介助の技法②

講義方法 ・板書、ノート、資料を使用した講義および演習となります。
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むようにしてください。 ・介護実習での実践が可能となるよう、授業時間以外も各自で技術習得のための練習を行うことが望ましい。 ・段階的な展開となる授業のため、欠席は極力しないこと。
成績評価方法 実技20% 筆記80%で評価
教科書 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版）
参考書 適宜指示
予習復習のアドバイス ・生活支援技術他項目との関連が多いため、各自で復習を徹底するのが望ましい。

記載日 令和5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度		時 期		後 期		学 年		1年	
学 科		介護福祉科		講義時間		時間割参照					
科目名		生活支援技術Ⅱ (終末期)		講義曜日		時間割参照		講義回数		8/15回	
				単位時間数		16		単位数		4	
講師名		原田 由美子		実務経験		介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務					
講義目標		一般目標									
		睡眠・休息の意義、目的を理解し、具体的で根拠ある介護を展開できる。また、終末期における要介護者・家族の心理的援助を理解する。									
		到達目標									
		・睡眠・休息のアセスメントに係る知識の習得および具体的介護方法の習得									
		・終末期介護の倫理と具体的介護方法、家族援助の理解									
回数	月 日	講義内容			回数	月 日	講義内容				
1		終末期の介護の意義と目的			11						
2		終末期の介護の基本			12						
3		終末期に関するアセスメントの視点と目標設定			13						
4		終末期における介護の具体的展開①			14						
5		医療との連携			15						
6		臨終場面の介護			16						
7		グリーフケア			17						
8		まとめ			18						
9					19						
10					20						
講義方法											
・板書、ノート、資料を使用した講義および演習となります。											
・特別講演											
講義で使用する機器・教材											
iPad必須											
履修上の注意事項											
・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むようにしてください。											
・介護実習での実践が可能となるよう、授業時間以外も各自で技術習得のための練習を行うことが望ましい。											
・段階的な展開となる授業のため、欠席は極力しないこと。											

成績評価方法

レポート、期末試験100%

教科書

生活支援技術Ⅰ（中央法規出版）

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

・生活支援技術他項目との関連が多いため、各自で復習を徹底するのが望ましい。

記載日 令和4年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅱ (リハビリテーション論)	講義曜日	時間割参照	講義回数	15／30
		単位時間数	30／60	単位数	1
講師名	上遠野、和地、藤井				
講義目標	一般目標 ・対象者が要介護状態になってもできるかぎり悪化を防ぐ。 ・また、自立して、充実した生活を送れるようにするために、 「できない・しないを支える介護技術」から「できるようになる・するようになる介護技術」へ考え方を 変える。				
	到達目標 ・尊厳の保持、自立・自律の尊重について理解する。 ・ICFについて理解する。 ・ADLの基本的介助方法と各疾患(障害)における介助方法を理解する。				
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		リハビリテーションとは	11		自立に向けた起居動作介助の基礎と 各疾患(障害)における介助方法
2		社会保障制度と介護保険制度	12		自立に向けた移乗介助の基礎と各疾 患(障害)における移乗介助
3		リハビリテーションの流れと役割	13		自立に向けた移動介助の基礎と各疾 患(障害)における車椅子の適合と歩 行介助
4		スタッフ間連携と生活リハビリテーショ ン	14		自立に向けた食事介助の基礎と 各疾患(障害)における食事介助
5		ICF(1)	15		自立に向けた排泄と入浴介助の基 礎、機能訓練のあり方
6		ICF(2)	16		
7		環境因子	17		
8		居室の環境改善	18		
9		チームアプローチとカンファレンス	19		
10		リハビリテーション総合実施計画書	20		

講義方法 座学、PBL学習、演習
講義で使用する機器・教材 プロジェクター、iPad
履修上の注意事項 とにかく、板書および話した内容をもれなく記録することを習慣づけること。 わからないことは、そのままにせず、すぐに聞く習慣を身につける。 ※ファイルを用意し、配布資料やノートを適切に整理して下さい。
成績評価方法
教科書 野尻晋一：リハビリテーションからみた介護技術 中央法規
参考書 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション.中央法規 諏訪さゆり：ICFの視点を活かしたケアプラン実践ガイド.日総研出版
予習復習のアドバイス とにかく、授業の全ての内容を残すようにしてください。 授業のあとは、必ず自分なりにまとめ直すことが大切です。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	通 年	学 年	1
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護過程Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	野呂勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標 介護過程の基礎とプロセス、介護実践における介護過程の必要性が理解できる。また、ケースのアセスメントにおける情報分析までを実践できる。				
	到達目標 ・介護過程の考え方・意義・目的を学び、理解できる ・介護を学ぶにあたって、介護過程の展開を理解し、利用者の自己実現を援助できる視点を養う ・アセスメントの考え方を理解し、記録することができる ・ICFを理解し、介護過程に反映させることができる				
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		介護過程を展開するうえでの基本視点	16		事例の展開(アセスメントまで)
2		介護過程とは何か	17		事例の展開(アセスメントまで)
3		【演習】クラスメイトに旅行先の提案をしよう	18		事例の展開(アセスメントまで)
4		【演習】クラスメイトに旅行先の提案をしよう	19		事例の展開(アセスメントまで)
5		介護過程におけるアセスメント	20		事例の展開(アセスメントまで)
6		【演習】情報収集	21		事例の展開(アセスメントまで)
7		【演習】情報収集	22		事例の展開(アセスメントまで)
8		生情報とそうでないものを区別してみよう	23		事例の展開(アセスメントまで)
9		より質の高い情報を得るために	24		事例の展開(アセスメントまで)
10		効率の良い情報収集のための記録様式	25		介護過程の理解の確認テスト
11		効率の良い情報収集のための記録様式	26		まとめ
12		情報の解釈・関連付け・統合化とニーズ(課題)の明確化	27		介護実習Ⅰ.2 事例研究発表
13		情報の解釈・関連付け・統合化とニーズ(課題)の明確化	28		介護実習Ⅰ.2 事例研究発表
14		【演習】情報の解釈をしてみよう	29		介護実習Ⅰ.2 事例研究発表
15		【演習】情報の質と量の大切さを考える	30		介護実習Ⅰ.2 事例研究発表

講義方法 テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う グループワークの実施
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと ・介護実習及び就業に際して直接的に関係する科目の為、欠席はしないこと
成績評価方法 事例展開課題（事例展開練習においてアセスメントができているか、実習事例発表態度など） 70% 筆記試験 30%
教科書 介護過程（中央法規出版） 参考書 適宜指示
予習復習のアドバイス ・テキストや関連文献を日常的に使用し、学習すること ・資料を多く使用する為、ファイリング等を行うこと ・介護実習、就業に直接関連する科目の為、日常的な学習が必要

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	通年	学 年	1
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護総合演習Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	45
		単位時間数	90	単位数	3
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標 介護実習に向けての心構えや、それに対する予備知識、動機付けなどの準備を行い、介護施設の概要や、利用者の生活に関して理解する。また、記録の方法や介護実習を行ってみての振り返りの重要性についても考え、理解する。				
	到達目標 ・介護施設の概要と利用者の生活像、介護福祉士の役割を理解する。 ・実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を明確化・言語化できる。 ・介護実習Ⅰの実習施設の概要と利用者のアセスメントの理解ができ、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。				
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		介護実習全体像の理解(14～22)	24		実習計画の必要性と作成方法
2		早期見学型実習とは(対象事業所の理解)	25		実習計画作成
3		施設概要の理解	26		実習計画作成
4		個人票・自己課題作成	27		事前オリエンテーションまとめ
5		個人票・自己課題作成	28		事前オリエンテーションまとめ
6		個人票・自己課題作成 完成	29		事前学習
7		施設のイメージの具体化(映像資料)	30		事前学習
8		施設のイメージの具体化(映像資料)	31		Ⅰ. 2実習前の確認
9		目標設定と実習記録作成方法	32		Ⅰ. 2実習前の確認
10		実習生としてのマナーと心得(マイナビ)	33		帰校日 情報収集まで
11		実習生としてのマナーと心得(振り返り)	34		帰校日 情報収集まで
12		実習心得の確認(Ⅰ. 1実習前日)	35		帰校日 情報収集まで
13		Ⅰ. 1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	36		Ⅰ. 2実習後(お礼状・情報用紙作成 等)
14		Ⅰ. 1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	37		Ⅰ. 2実習後(お礼状・情報用紙作成 等)
15		Ⅰ. 1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)	38		Ⅰ. 2実習後・振り返り
16		生活支援体験型実習とは	39		事例研究資料作成作成の方法
17		実習対象施設について	40		事例研究資料作成
18		個人票・自己課題作成	41		事例研究資料作成
19		個人票・自己課題作成	42		事例研究資料作成
20		個人票・自己課題作成	43		事例研究資料作成
21		個人票・自己課題作成 完成	44		事例研究資料作成(リハーサル)
22		介護実習Ⅰ. 2における記録作成の留意点	45		事例研究資料作成(リハーサル)
23		介護実習Ⅰ. 2における記録作成の留意点			

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。
グループワークの実施。

講義で使用する機器・教材

iPad必須

履修上の注意事項

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・提出物・レポートは指定の方法で提出し、期限を厳守すること。(期限を過ぎた場合の受け取りは行わない)

成績評価方法

提出物とその内容 100%

※未提出、提出遅れ、内容不足は減点となるため、留意すること。

教科書

介護総合演習・介護実習(中央法規出版)

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

・事前にテキストを読んでおく。配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。介護実習に直接反映する科目の為、介護過程の予習・復習も行うこと。

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	介護実習 I	実習時間	基本として9:00～18:00(休憩1時間含む) ※変則勤務あり		
		実習曜日	終日	実習日数	17日
		総時間数	136	単位数	3

[一般目標]

介護実習 I.1

- ① 1) 介護サービス利用者の理解と、利用者の状態に応じた介護実践の見学及び体験をする。
また、施設の業務内容の理解や法的位置づけおよび役割を理解する。
- ② 1) 介護福祉士としての基本姿勢、態度を習得。
2) 利用者・職員との関わりを通じてコミュニケーションを実践する。
- ③ 1) 介護実習の意義目的を理解し、実習施設での実習方法を身につける。

介護実習 I.2

- ① 1) 利用者の支援に必要で適切な情報を収集し、アセスメントできる。
2) 適切に情報をまとめることができる。
3) 初歩的な介護技術お体験し、その方法を理解できる。
- ② 1) 保健・医療・福祉の各分野の職場において、介護福祉士の役割と責任を理解し、チームケアの一員として自覚をもって適切な態度・行動がとれる。
2) 利用者との関わりにおいて、言語的・非言語的コミュニケーションを用いたコミュニケーションを図ることができる。
- ③ 1) インフォームド・コンセントお踏まえた上で、利用者から必要で適切な情報を収集でき、適切にまとめる。
2) 日々の記録・報告ができる。
3) 変則勤務(早番・遅番)を経験し、利用者の継続的な生活の支援を理解できる。

介護実習 I.1

実施時期:6月

実施時間:16時間(2日間)

実施施設:デイサービスセンター、グループホーム、小規模多機能型施設

介護実習 I.2

実施時期:11月

実施時間:120時間(15日間)

実施施設:介護保険施設、障害者支援施設

成績評価方法

「指導者評価」「教員評価」の結果から学内で評価会議を実施し、履修修得を認定する。また、評価の総点の60%以上が合格となる。

記載日 令和5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度			2023年度			時 期			通 年			学 年			1年		
学 科			介護福祉科			講義時間			時間割参照								
科目名			発達と老化の理解			講義曜日			時間割参照			講義回数			10		
						単位時間数			20			単位数			4		
講師名			佐藤 佑美			実務経験			医療機関(総合病院、大学病院)8年、看護師として勤務								
講義目標			一般目標														
			人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が、生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。														
			到達目標														
			・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾患について理解できる。 ・老化に伴う身体的、心理的、社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾患と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援が理解できる。														
回数	月 日		講義内容				回数	月 日		講義内容							
1			第5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				11										
2			第5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				12										
3			第5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				13										
4			第5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				14										
5			第5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				15										
6			第5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				16										
7			第5章・3節 高齢に多い疾患・症状と生活上の留意点				17										
8			第5章・4節 保健医療職との連携				18										
9			第5章・4節 保健医療職との連携				19										
10			まとめ				20										

講義方法 ・テキストを基にした講義、グループワークおよび演習 ・必要に応じてフィールドワークを行う
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。 ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
成績評価方法 ・期末試験100%
教科書 発達と老化の理解(中央法規出版)
参考書 人体解剖図、脳の事典
予習復習のアドバイス 「こころとからだのしくみ」を関連付けた学習を行う事。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行う事。実践的な発達段階に応じた介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。

記載日 令和 5年 4月1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度	時 期		通 年	学 年	1 年
学 科		介護福祉科	講義時間		時間割参照		
科目名		発達と老化の理解	講義曜日	時間割参照	講義回数		20
			単位時間数	60	単位数		4
講師名		山野 英伯	実務経験	医療現場で看護師として6年以上 医療・福祉講師として25年以上			
講義目標		一般目標 人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的、心理的社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。					
		到達目標 ・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾患について理解できるようにする。 ・老化に伴う身体的、心理的、社会的な変化や高齢者に多くみられる疾患と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援が理解できるようにする。					
回数	月 日	講義内容		回数	月 日	講義内容	
1		オリエンテーション・シラバス説明／人間の成長と発達の基礎知識		11		3章・3節 老年期の発達課題	
2		1章・1節 成長と発達の考え方		12		3章・3節 老年期の発達課題	
3		1章・2節 成長と発達の原則・法則		13		3章・4節 老年期をめぐる今日的課題	
4		1章・3節 成長・発達に影響する要因		14		第4章・1節 老化に伴う身体的変化と生活への影響	
5		2章・1節 発達理論		15		第4章・2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響	
6		2章・2節 発達段階と発達課題		16		4章・3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響	
7		2章・3節 身体的機能の成長と発達		17		5章・1節 健康長寿にむけての健康	
8		2章・4節 心理的・社会的機能の発達		18		5章・2節 高齢者の症状・疾患の特徴	
9		2章・5節 社会的機能の発達		19		5章・3節 高齢者の症状・疾患の特徴	
10		小テスト ・ 1～9回までの振り返り		20		小テスト ・ 11～19回までの振り返り	

講義方法 ・テキストを基にした講義、グループワークおよび演習 ・必要に応じてフィールドワークを行う
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。 ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
成績評価方法 受講態度、 小テスト2回80%、 レポート
教科書 発達と老化の理解(中央法規出版)
参考書 人体解剖図、脳の事典
予習復習のアドバイス 「こころとからだのしくみ」を関連付けた学習を行う事。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行う事。実践的な発達段階に応じた介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度		時 期	前期	学 年	1
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照		
科目名	認知症の理解Ⅰ		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
			単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子		実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務		
講義目標	一般目標					
	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。					
	到達目標					
・認知症のある高齢者の現状と今後について説明できる。						
・認知症を引き起こす疾患の特徴と、主な症状、心身の変化、生活への影響を説明できる。						
回数	月 日		講義内容	回数	月 日	
1			認知症のある高齢者の現状と今後	11		
2			認知症とは何か	12		
3			脳のしくみ①	13		
4			脳のしくみ②	14		
5			認知症の人の心理	15		
6			中核症状の理解①	16		
7			中核症状の理解②	17		
8			生活障害の理解	18		
9			BPSDの理解①	19		
10			BPSDの理解②	20		

講義方法 講義、演習、小テスト(毎回最後に実施)
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 主体的に講義を受けること。 授業前に教科書を読んでおくこと。
成績評価方法 期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版
参考書 脳の事典
予習復習のアドバイス 分からないところはそのままにせず調べること。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	障害の理解Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤 佑美	実務経験	医療機関(総合病院、大学病院)8年、看護師として勤務		
講義目標	一般目標				
	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。				
	到達目標				
	・障害の概念や基本理念、医学的・心理的側面について学び、障害について基礎的理解ができる。 ・障害のある人のライフステージや特性に応じた支援について学び、理解できる。				
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		1章1節 障害の概念と障害者福祉の基本理念・障害の概念	11		3章2節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ・精神障害
2		1章2節 障害の概念と障害者福祉の基本理念・障害者福祉の基本理念	12		3章3節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ・高次脳機能障害
3		1章3・4節 障害の概念と障害者福祉の基本理念・障害者福祉に関する制度、介護保険制度	13		3章4節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ・発達障害
4		2章1節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ・障害のある人の心理	14		3章5節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ・難病
5		2章2節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ・肢体不自由	15		まとめ
6		2章2節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ・肢体不自由	16		
7		2章3・4節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 視覚障害、聴覚・言語障害	17		
8		2章5・6節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 重複障害・内部障害	18		
9		2章6・7章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 内部障害・重症心身障害	19		
10		3章1節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ・知的障害	20		

講義方法 テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 各実習室を使用して実技演習を行う。
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 ・提出物・レポートは指定の方法で提出し、期限を厳守すること。 (期限を過ぎた場合の受け取りは行わない) ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。□
成績評価方法 期末試験(小テスト含む)100%
教科書 障害の理解(中央法規出版)
参考書 適宜指示
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読み、予習した状態で授業に臨むこと。 ・授業資料を事前に確認しておくこと。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度	時 期		通 年	学 年	1
学 科		介護福祉科	講義時間		時間割参照		
科目名		こころとからだのしくみⅠ	講義曜日	時間割参照	講義回数		35/45
			単位時間数	70/90	単位数		3
講師名		佐藤 佑美	実務経験		医療機関(総合病院、大学病院)8年、看護師として勤務		
講義目標		一般目標					
		介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために、介護技術の根拠となる人間の心理(こころ)、人体の構造や機能(からだ)の基本的事項について理解できる。					
		到達目標					
		・介護実践の基底的な根拠となる「こころのしくみ(欲求、自己概念、尊厳、感情等)」「からだのしくみ(生命維持、恒常性のしくみ、関節可動域等)」について、基礎的な知識を理解できる。 ・人生の最終段階(終末期)にある人とその家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解できる。					
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容		
1		オリエンテーション・シラバス説明	21		こころとからだのしくみⅠ(9章)		
2		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	22		こころとからだのしくみⅠ(9章)		
3		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	23		こころとからだのしくみⅠ(9章)		
4		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	24		小テスト・1章振り返り		
5		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	25		小テスト・1章振り返り		
6		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	26		小テスト・1章振り返り		
7		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	27		小テスト・2章振り返り		
8		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	28		小テスト・2章振り返り		
9		こころとからだのしくみのしくみⅠ(1章)	29		小テスト・2章振り返り		
10		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	30		小テスト・2章振り返り		
11		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	31		小テスト・2章振り返り		
12		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	32		小テスト・9章振り返り		
13		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	33		小テスト・9章振り返り		
14		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	34		小テスト・9章振り返り		
15		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	35		まとめ		
16		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	36				
17		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	37				
18		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	38				
19		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	39				
20		こころとからだのしくみのしくみⅠ(2章)	40				

講義方法 テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 各実習室を使用して実技演習を行う。
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。 ・提出物・レポートは指定の方法で提出し、期限を厳守すること。 (期限を過ぎた場合の受け取りは行わない)
成績評価方法 レポート、期末試験100%(佐藤80%、河村20%) ※未提出、提出遅れ、内容不足は減点となるため、留意すること。
教科書 こころとからだのしくみ(中央法規出版)
参考書 人体解剖図、脳の事典
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読んでおく。 ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年(令和5年)度		時 期		通 年		学 年		1年	
学 科		介護福祉科		講義時間		時間割参照					
科目名		こころとからだのしくみⅠ (からだのしくみ)		講義曜日		時間割参照		講義回数		10/45	
				単位時間数		20/90		単位数		6	
講師名		河村 真人		実務経験		医療現場で看護師として5年以上 医療・福祉講師として15年以上					
講義目標		一般目標									
		介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために、介護技術の根拠となる人間の感覚や基礎的な心理的事項、人体の形態や機能の基本的事項について理解できる。									
		到達目標									
		・からだのしくみや動きを学び、機能低下した際日常生活に及ぼす影響をイメージし、説明できるようになる。 ・脳構造からみた心理およびこころのしくみを学習し、介護実践に応用できる能力を養う。また、介護福祉士として心理上の自己管理を行えるようになる。 ・終末期のとらえ方を学び、看取りでの尊厳の保持の意味を学ぶ。									
回数	月 日		講義内容			回数	月 日		講義内容		
1			オリエンテーション・ラバス説明.(序章)健康とは			11					
2			第1章 人間の欲求の基礎的理解			12					
3			自己概念と尊厳			13					
4			こころのしくみの基礎			14					
5			第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ			15					
6			移動に関連したこころとからだのしくみ			16					
7			機能低下・障害が移動に及ぼす影響			17					
8			第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ			18					
9			機能低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響			19					
10			9章人生の最終段階に関する死のとらえ方			20					

講義方法 テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 実習室を利用して実技演習を行う。
講義で使用する機器・教材 i pad必須。演習用人体モデル
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。 ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。 ・提出物の提出期限に注意すること。
成績評価方法 期末試験100%（ 佐藤80% ： 河村20% ）
教科書 こころとからだのしくみ(中央法規出版)
参考書 人体解剖図、脳の事典
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読んでおく。 ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度		時 期	後期	学 年	2		
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照				
科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ（チームマネジメント）		講義曜日	時間割参照	講義回数	15		
			単位時間数	30	単位数	2		
講師名	原田 由美子		実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務				
講義目標		一般目標 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。						
		到達目標 ・（要素を組み立てて）物語を想像したり、創造することができる。 ・組み立てた物語の、登場人物としてその役割を演じることができる（ほかの役割との相互関係も含めて）。						
回数	月 日		講義内容		回数	月 日	講義内容	
1			ヒューマンサービスとしての介護サービス		11			介護サービスを支える組織の構造
2			介護現場で求められるチームマネジメント		12			介護サービスを支える組織の機能と役割
3			介護実践におけるチームマネジメントの取り組み		13			介護サービスを支える組織の管理
4			ケアを展開するために必要なチームとその取り組み		14			介護実践におけるチームマネジメントの実際①
5			チームでケアを展開するためのマネジメント		15			介護実践におけるチームマネジメントの実際②
6			チームの力を最大化するためのマネジメント		16			
7			介護福祉職のキャリアと求められる実践力		17			
8			介護福祉職としてのキャリアデザイン		18			
9			介護福祉職のキャリア支援・開発		19			
10			自己研鑽に必要な姿勢		20			

講義方法 講義、演習、小テスト
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 ミニテスト40%、レポート50%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版
参考書
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023(令和5)年度		時 期	通 年	学 年	2年
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ (アクティビティ)		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
			単位時間数	30	単位数	2
講師名	石川 仁		実務経験	障害者施設で福祉レクリエーションワーカー等として15年以上		
講義目標	一般目標					
	・対象疾患に応じたレクリエーションの進め方を学び、また援助のプロセスを理解する。 ・演習を通して、実践援助能力を身に付ける。					
講義目標	到達目標					
	・レクリエーション活動が対象者に及ぼす影響や効果を理解出来る。 ・対象者の個別支援計画に基づいた、レクリエーションを選択出来る。 ・レクリエーション(集団的プログラムを中心に)の計画立案を行い、安全に実施出来る。					
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容	
1		オリエンテーション レクリエーションの基本理念(アイスブ レーキング、ラポール形成)	11		アクティビティーの施行と教示② Activityの開発・実施②	
2		レクリエーションの基本理念② ～人の発達段階とレクリエーション	12		アクティビティーの施行と教示③ Activityの開発・実施③	
3		レクリエーションの技法① ～集団を対象とするコミュニケーション 技術	13		アクティビティーの施行と教示④ Activityの開発・実施④	
4		レクリエーションの技法② ～プログラムの立案と展開	14		アクティビティーの施行と教示⑤ プレゼンテーション①	
5		レクリエーションの技法③ ～レクリエーションの実施と活用①	15		アクティビティーの施行と教示⑧ プレゼンテーション②	
6		レクリエーションの実際 ～認知症例への関わり	16			
7		レクリエーションの実際① ～片麻痺事例への関わり	17			
8		レクリエーションの実際② ～片麻痺事例への関わり	18			
9		レクリエーションの実際 ～感覚器障害事例への関わり	19			
10		アクティビティーの施行と教示① Activityの開発・実施①	20			

講義方法

適宜、資料としてハンドアウトを配布する

講義で使用する機器・教材**履修上の注意事項**

備品を多く使用する授業のため、物品管理、整理整頓を常に心がけること。グループワークの多い講義となっているため欠席することによるグループワークの進行やグループワークへ与える影響をよく考えること

成績評価方法

発表(80%)、授業出欠(10%)、授業態度(10%)で評定を行う。

教科書

特に指定しない

参考書**予習復習のアドバイス**

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度		時 期		前期		学 年		2	
学 科		介護福祉科		講義時間		時間割参照					
科目名		社会の理解Ⅱ		講義曜日		時間割参照		講義回数		15	
				単位時間数		30		単位数		2	
講師名		原田 由美子		実務経験		介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務					
講義目標		一般目標 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。									
		到達目標 ・高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得することができる。									
回数	月 日		講義内容			回数	月 日		講義内容		
1			高齢者保健福祉の動向			11			障害者総合支援制度②		
2			高齢者保健福祉に関連する法体系			12			個人の権利を守る制度・施策		
3			介護保険制度創設の背景と目的			13			保健医療に関する制度・施策		
4			介護保険制度①			14			貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策		
5			介護保険制度②			15			地域生活を支援する制度・施策		
6			介護保険制度の動向			16					
7			障害保健福祉の動向			17					
8			障害保健福祉に関連する法体系			18					
9			障害者総合支援制度創設の背景と目的			19					
10			障害者総合支援制度①			20					

講義方法 講義、演習、小テスト
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 期末試験70%、小テスト20%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版
参考書 福祉小六法 2022
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	通 年	学 年	2年
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	国際理解と外国人交流	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	野呂・原田・佐藤	実務経験			
講義目標	一般目標 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解及び国際的な視野を養う 多文化共生の理解と地域の繋がりを理解し自己覚知でき対人援助コミュニケーションにおける心を育む				
	到達目標 外国人留学生との交流をもつことで外国人と諸外国の文化や宗教に触れ外国人の特性を理解する 多様化する介護福祉施設での外国人と接する機会をもつことで、知識として持っている接遇を実践しコミュニケーションについての意識を高める。 変容する日本社会と国際理解及び多文化共生について理解する				
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		学外研修(オリエンテーション)	11		国際理解(映像学習)
2		学外研修(松陽苑)	12		国際理解(映像学習)まとめ
3		学外研修(松陽苑)	13		外国人留学生交流会
4		学外研修(松陽苑)	14		外国人留学生交流会
5		学外研修(松陽苑)	15		外国人留学生交流会まとめ
6		学外研修でのまとめ	16		
7		学外研修でのまとめ	17		
8		多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態	18		
9		多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態	19		
10		多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態の感想	20		
講義方法 特別講義・演習・グループワーク 学外研修					
講義で使用する機器・教材 iPad必須					
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むようにしてください。 ・段階的な展開となる授業のため、欠席は極力しないこと。					

成績評価方法

授業態度及びレポートや課題で評価するため期日内提出を心掛けること。

レポート・課題(80%)、授業態度(20%)

教科書**参考書**

適宜資料配布

予習復習のアドバイス

事前配布資料を基に学習を進めることが望ましい。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	通年	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活技術	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標				
	生活に必要な基礎的な技術を身につけ、生活するための能力を養うことができる				
講義目標	到達目標				
	・調理に基本を理解し、簡単な調理をすることができる ・洗濯の仕方や衣類管理について理解することができる ・生活にかかわる社会的規則についてを理解することができる				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		調理支援が必要な対象者の理解	9		栄養素
2		調理実習 レシピ確認・準備	10		食材の管理と食中毒
3		食材の下処理、加工の理解	11		掃除
4		調理実習 レシピ確認・準備	12		衣服の管理・洗濯
5		献立の作成方法	13		冠婚葬祭のマナー
6		調理実習 レシピ確認・準備	14		まとめ
7		食品購入・物品準備	15		試験
8		食品購入・物品準備			

講義方法

講義・演習

講義で使用する機器・教材

生活用具全般(調理器具、洗濯用品等)

履修上の注意事項

配布物の管理;ファイリングするなどし、授業時には持参する

調理時には衛生面に留意し、身だしなみ等も整えて出席する

成績評価方法

筆記試験 100%

教科書

生活支援技術Ⅰ(中央法規出版)、生活支援技術Ⅱ(中央法規出版)

参考書

適宜資料配布

予習復習のアドバイス

技術を習得するために、家庭においても復習すること

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度	時 期		後期	学 年		2
学 科		介護福祉科	講義時間		時間割参照			
科目名		情報処理	講義曜日		時間割参照	講義回数		15
			単位時間数		30	単位数		2
講師名		原田 由美子	実務経験		介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務			
講義目標		一般目標						
		パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。						
		到達目標						
		・MicrosoftOffice(Word、Excel)の基本操作ができる。						
		・介護現場で行われているMicrosoftOfficeを使用したパソコン業務を疑似体験できる。						
回数	月 日	講義内容		回数	月 日	講義内容		
1		Windows10の基礎		11		PowerPoint・基礎		
2		Word・基礎		12		Excel・応用(レク創作)		
3		Word・基礎		13		Excel・応用(レク創作)		
4		Word・応用(議事録作成)		14		Excel・応用(レク創作)		
5		Excel・基礎		15		Excel・応用(レク創作)		
6		Excel・基礎		16				
7		Excel・基礎		17				
8		Excel・応用(勤務表作成)		18				
9		Excel・応用(勤務表作成)		19				
10		Excel・応用(勤務表作成)		20				

講義方法

基礎は教科書中心に、応用は介護現場で行われている業務を疑似体験しながらマシン実習を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター

履修上の注意事項

- ・授業には休まず毎日出席すること、欠席は提出課題作成などの遅れとなる。
- ・理解できない場合は、そのままにせず積極的に質問すること。理解して次に繋げる。
- ・テキストを参照しながら授業を進めるので、テキストは忘れないこと。

成績評価方法

小テスト10%、提出物80%、授業態度10%

※提出物の評価基準は都度説明する。

教科書

「30時間でマスターOffice2019」(実教出版)

参考書**予習復習のアドバイス**

特に予習復習の必要はなし。

課題作成の遅れは、授業の空きコマや放課後に各自マシンを使用し実習できる。

(ただしマシンは他科と共有のため利用状況を教員に確認してください。)

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度		時 期	前期	学 年	2
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本Ⅲ		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
			単位時間数	60	単位数	4
講師名	原田 由美子		実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標		一般目標				
		介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
		到達目標				
		・介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性を理解し、介護現場の場面を多角的に分析し、安全対策の必要性を述べることができる。 ・介護従事者が心身ともに健康に就労継続するために、健康管理方法や労働環境の管理の重要性を述べることができる。 ・AIやICT、IoTなどの貼ってbb、ロボットの開発・導入が進行する中で、介護を必要とする人の生活の変化に伴う介護福祉士の働き方について自分の考えを述べることができる。				
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容	
1		介護における安全確保①	21		多職種連携③	
2		介護における安全確保②	22		多職種連携④	
3		リスクマネジメント①	23		多職種連携⑤	
4		リスクマネジメント②	24		健康管理①	
5		リスクマネジメント③	25		健康管理②	
6		危険予知トレーニング	26		健康管理③	
7		事故防止・安全対策①	27		こころの健康管理	
8		事故防止・安全対策②	28		身体の健康管理	
9		事故防止・安全対策③	29		労働環境の整備	
10		感染症対策①	30		私の介護観	
11		感染症対策②	31			
12		感染症対策③	32			
13		感染症対策④	33			
14		感染症対策⑤	34			
15		感染症対策⑥	35			
16		多職種連携・協働の必要性①	36			
17		多職種連携・協働の必要性②	37			
18		多職種連携・協働に求められる基本的能力	38			
19		多職種連携①	39			
20		多職種連携②	40			

講義方法 講義、演習、小テスト
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度受け付けます。
成績評価方法 期末試験70%、小テスト20%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版
参考書 福祉小六法2022 ※使用する参考書は適宜指示
予習復習のアドバイス 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標 コミュニケーションの基礎的な知識を復習し、各障害特性をコミュニケーション技術に特化した視点で理解できる。				
	到達目標 ・多職種連携とチームコミュニケーションを理解し、実践で活用することができる。 ・各障害特性について再学習し、コミュニケーション障害について説明することができる。 ・各障害特性に合わせたコミュニケーション技術を習得し、実践で活用することができる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		オリエンテーション / コミュニケーション障害の理解	9		「報告」「連絡」「相談」の意義と目的
2		聴覚障害・視覚障害体験	10		記録の意義／実際
3		聴覚障害／視覚障害の理解とコミュニケーション支援方法	11		会議・議事進行の技術
4		構音障害／失語症の理解とコミュニケーション支援	12		ディスカッション 演習
5		認知症の理解とコミュニケーション支援	13		ディスカッション 演習
6		高次脳機能障害の理解とコミュニケーション支援	14		試験
7		チームコミュニケーションの概要	15		まとめ
8		「報告」「連絡」「相談」の意義と目的			

講義方法

講義・グループワークをおり交ぜた学習。
演習を行い、実践で活用できる技術を学ぶ。

講義で使用する機器・教材

iPad必須

履修上の注意事項

遅刻・欠席がないことが望ましい。

成績評価方法

提出物:20% 筆記試験:80%

教科書

最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

- ・コミュニケーション技術 I で学んだことを復習したうえで講義に臨むこと。
- ・他科目と連動する内容があるため、当科目だけで終結せずに関連付けする必要がある。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023(令和5)年度	時 期	後期	学 年	2年
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ (被服)	講義曜日	時間割参照	講義回数	8/60
		単位時間数	16/120	単位数	2
講師名	相澤 美智子	実務経験	服飾講師として30年以上		
講義目標	一般目標				
	・要介護者の行う裁縫等の行為に対する支援ができるようになる。 ・在宅、介護施設等の要介護者の衣服の管理及び補修に関わる知識、技術を習得する。				
	到達目標				
	・裁縫道具について理解し適切な使い方ができるようになる。 ・裁縫技術(縫い方)について理解し、場面に応じて適用できるようになる。				
回数	月 日	講義内容			
1	11月4日	・裁縫道具について…名称と用途の説明及び使用物品の準備。 ・基礎縫い準備…1、布の扱い方 2、標の付け方 3、待ち針の持ち方 4、待ち針の打ち方			
2		・基礎技法…1、縫い始めと終わりの方法 ①玉結び ②玉止め ③返し縫い2種 2、縫い方各種 ①並縫い ②半返し縫い ③全返し縫い 3、糸継ぎの仕方			
3	11月11日	4、躰のかけ方			
4		5、縫い代始末各種 ①千鳥掛け ②流しまつり ③コの字まつり ④裁ち目がかり			
5	11月18日	6、ボタン及びスナップの付け方			
6		・アイロンの扱い方…温度管理とアイロンのかけ方			
7	11月25日	・課題製作…ポケットティッシュケース作り			
8					

講義方法
講義で使用する機器・教材 ・裁縫道具(縫い針長短1本・玉待針5本・針山・角ヘラ・懸張器・竹尺・鋏3種・アイロン及びアイロン台) ・基本縫い材料(生地〈晒木綿〉・太口木綿手縫い糸2色・穴糸・スナップ・釦(ボタン)・糸通し) ・課題作成材料(生地〈厚地木綿〉・接着芯・木綿手縫い糸)
履修上の注意事項
成績評価方法 1. 提出物 70点(①基礎縫い、②課題作品)、2. 授業態度20点、3. 出席状況10点
教科書 新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版) p.198被服生活の基本知識、p.209被服の裁縫、p.256衣類寝具の衛生管理
参考書 「裁縫技術の基礎技法」プリント配付
予習復習のアドバイス

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023(令和5)年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ (形態別介護)	講義曜日	時間割参照	講義回数	22/60
		単位時間数	44/120	単位数	4
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として 9年勤務		
講義目標	一般目標 ①障害や疾病のある人について医学的、心理的側面から理解する ②生活上の困りごとを理解する ③障害や疾病がある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する				
	到達目標 ・各種障害の症状、特性を知る ・障害に対するソーシャルサポートを理解し、活用できる ・福祉住環境整備を含めた総合的な支援体制を理解する ・各種障害に応じた身体的、心理的支援ができる				
回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		形態別介護事例① ポイントと計画	12		形態別介護事例③ 支援実施
2		形態別介護事例① ポイントと計画	13		外出支援 計画
3		形態別介護事例① 支援実施	14		外出支援 事前準備
4		形態別介護事例① 支援実施	15		外出支援 事前準備
5		形態別介護事例② ポイントと計画	16		外出支援 事前準備
6		形態別介護事例② ポイントと計画	17		外出支援 実施
7		形態別介護事例② 支援実施	18		外出支援 実施
8		形態別介護事例② 支援実施	19		外出支援 実施
9		形態別介護事例③ ポイントと計画	20		外出支援 実施
10		形態別介護事例③ ポイントと計画	21		外出支援 振り返り
11		形態別介護事例③ 支援実施	22		外出支援 振り返り

講義方法 一般教室による講義を中心に必要教材を用いて授業を展開する。 グループワーク等の演習の機会を作り、考えを互いに共有し合う。 学外実習での課題、レポート等提出について適宜指示する。
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 ・配布資料等は毎回持参し、授業に活用していくこと。 ・質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。 ・居眠りや欠席・遅刻は授業に影響することを自覚し、授業に集中出来るよう努めること。私語を控えること。 ・学外実習時も出席率に反映する。 ・学外実習時の提出物や遅刻、早退、実習態度も評価に反映する。
成績評価方法 ・成果物10点、実技10点、授業態度10点（30点満点） ・障害別の評価は 野呂70%（前期）＋ 原田30%（後期）＝100%（後に60%換算） ・生活支援技術Ⅲの総合評価は 形態別60% ＋ 家事・調理・家庭生活30% ＋ 被服10% ＝100%
教科書 生活支援技術Ⅲ（中央法規出版）
参考書 適宜指示
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読んでおく ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく ・専門用語は早期に調べ、授業時に使用する用語の理解に努める

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度		2023(令和5)年度		時 期		前期		学 年		2	
学 科		介護福祉科		講義時間		時間割参照					
科目名		生活支援技術Ⅲ (形態別介護)		講義曜日		時間割参照		講義回数		16	
				単位時間数		32		単位数		1	
講師名		野呂 勇介		実務経験		介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務					
講義目標		一般目標									
		①障害や疾病のある人について医学的、心理的側面から理解する									
		②生活上の困りごとを理解する									
		③障害や疾病がある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する									
		到達目標									
		・各種障害の症状、特性を知る									
		・障害に対するソーシャルサポートを理解し、活用できる									
		・福祉住環境整備を含めた総合的な支援体制を理解する									
		・各種障害に応じた身体的、心理的支援ができる									
回数	月 日	講義内容			回数	月 日	講義内容				
1		肢体不自由に応じた介護			9		1～8回までの小テストと振り返り				
2		肢体不自由に応じた介護②			10		発達障害に応じた介護				
3		視覚障害に応じた介護			11		ALSに応じた介護				
4		視覚障害に応じた介護②			12		ALSに応じた介護②				
5		内部障害(心臓・呼吸器)に応じた介護			13		パーキンソン病に応じた介護				
6		内部障害(腎臓)に応じた介護			14		悪性関節リウマチに応じた介護				
7		内部障害(膀胱・直腸障害)に応じた介護			15		筋ジストロフィーに応じた介護				
8		内部障害(肝臓)に応じた介護			16		10～15回までの小テストと振り返り				

講義方法

一般教室による講義を中心に必要教材を用いて授業を展開する。

授業後に小テストを行い、理解力の確認を行う。

講義で使用する機器・教材

iPad必須

履修上の注意事項

- ・質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
- ・居眠りや欠席・遅刻は授業に影響することを自覚し、授業に集中出来るよう努めること。私語を控える

成績評価方法

各单元ごとの小テスト(全11回)と振り返り小テスト(全2回) : 60% 期末試験 : 40%

障害別の成績は 野呂70%(前期) + 原田30%(後期) = 100%(後に60%換算)

生活支援技術Ⅲの総合評価は **形態別60%** + 家事・調理・家庭生活30% + 被服10% = 100%

教科書

生活支援技術Ⅲ(中央法規出版) 障害の理解(中央法規出版)

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく
- ・配布資料は、授業前に復習しておく
- ・専門用語は早期に調べ、授業時に使用する用語の理解に努める

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	後期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ(家庭生活)	講義曜日	時間割参照	講義回数	5
		単位時間数	10	単位数	1
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標				
	家庭生活の営みを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。				
	到達目標				
	・栄養や食材管理について理解し、適切に支援することができる。				
	・家庭生活という大枠から、経営を中心に介護福祉職としての役割を理解し説明、対応することができる。				

回数	月 日	講義内容
1		家庭生活の理解
2		生活設計の考え方
3		消費者保護に関する理解
4		まとめ
5		試験
講義方法 テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。		
講義で使用する機器・教材 iPad必須		
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。		
成績評価方法 筆記試験100% ※後に70%換算し、前期科目「家事・調理」の30%と合算し最大100%とする。それを30%換算する。 生活支援技術Ⅲの総合評価は 形態別60% + 家事・調理・家庭生活30% + 被服10% =100%		
教科書 生活支援技術Ⅰ(中央法規出版)		
参考書 適宜指示を出す。		

予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)					
年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	通年	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ(家事・調理)	講義曜日	時間割参照	講義回数	9
		単位時間数	18	単位数	1
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務		
講義目標	一般目標				
	家庭生活の中での家事、調理の必要性を理解した上で、利用者の個性に対応できる技術・能力を身につける。				
	到達目標				
・生活全般における家事の基礎知識についての理解ができる。					
・基本的な食材・調理の知識及び技術を身につけることができる。					
回数	月 日	講義内容			
1		調理支援演習①～献立の確認・物品準備～			
2		調理支援演習①～調理(メイン:唐揚げ)・盛り付け～			
3		調理支援演習①～片づけ～			
4		調理支援演習②～献立の確認・物品準備～			
5		調理支援演習②～調理(メイン:餃子)・盛り付け～			
6		調理支援演習②～片づけ～			
7		調理支援演習③～献立の確認・物品準備～			
8		調理支援演習③～調理(応用)・盛り付け～			
9		調理支援演習③～片づけ～			
講義方法					
調理実習室を使用しての実技演習。					
講義で使用する機器・教材					
iPad、献立					
履修上の注意事項					
・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。					
・調理実習室では食材を扱うため、清潔に努める。身だしなみを整え実習に臨むこと。					
・調理実習室では刃物等を使用するため、細心の注意をはらうこと。					
・レポート等の提出物の提出期限に注意すること。					
成績評価方法					
レポート:75% + 提出物(3回目レシピ等)25% =100%					
※後に30%換算し、後期科目「家庭生活」の筆記試験70%と合算し最大100%とする。それを30%換算する。					
生活支援技術Ⅲの総合評価は 形態別60% + 家事・調理・家庭生活30% + 被服10% =100%					
教科書					
生活支援技術Ⅰ(中央法規出版)					
参考書					
適宜指示を出す。					
予習復習のアドバイス					
・事前にテキストを読んでおく。					
・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。					

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)		時 期	通 年	学 年	2
学 科	介護福祉科		講義時間	時間割参照		
科目名	介護過程Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数		45
		単位時間数	90	単位数		3
講師名	野呂 勇介	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務			
講義目標	一般目標 要介護者のアセスメント～ニーズの抽出についてICFを用いた展開が理解でき、計画策定ができる。また、モニタリング～評価の段階でICFを活用し、再アセスメントを行える。					
	到達目標					
	・ケアマネジメントと介護過程の関係性と多職種協働の重要性が理解できる。					
	・アセスメント～ニーズの抽出においてICF生活モデルの概念を活用できる					
	・福祉的観点および医療的観点を統合した適切かつ現実的なケアプランの策定ができる					
・ICFおよび介護過程の展開を「もとにして」要介護者のQOL評価を考える機会とする						
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容	
1		介護過程とケアマネジメントの関係性(P136～147)	24		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
2		介護計画の意義と目標設定(P59～68)	25		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
3		介護計画の意義と目標設定(P59～68)	26		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
4		事例を基にした介護過程の展開演習	27		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
5		事例を基にした介護過程の展開演習	28		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	
6		事例を基にした介護過程の展開演習	29		介護実習Ⅱ.1事例研究発表	
7		事例を基にした介護過程の展開演習	30		介護実習Ⅱ.1事例研究発表	
8		事例を基にした介護過程の展開演習	31		介護実習Ⅱ.1事例研究発表	
9		事例を基にした介護過程の展開演習	32		介護の実施の意義と留意点(P69～70)	
10		事例を基にした介護過程の展開演習	33		実施の記録の種類と留意点(P70～74)	
11		事例を基にした介護過程の展開演習	34		評価の意義と目的(P75～80)	
12		事例を基にした介護過程の展開演習	35		評価の意義と目的(P75～80)	
13		事例を基にした介護過程の展開演習	36		介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
14		事例を基にした介護過程の展開演習	37		介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
15		事例を基にした介護過程の展開演習	38		介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
16		事例を基にした介護過程の展開演習	39		介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
17		情報収集 演習(1・2年合同)	40		介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
18		情報収集 演習(1・2年合同)	41		介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成	
19		介護実習Ⅱ.1 介護過程振り返り	42		介護実習Ⅱ.2事例研究発表	
20		介護実習Ⅱ.1 介護過程振り返り	43		介護実習Ⅱ.2事例研究発表	
21		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	44		介護実習Ⅱ.2事例研究発表	
22		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成	45		まとめ	
23		介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成				

講義方法 座学および演習・グループワーク
講義で使用する機器・教材 iPad・カンファレンスシート
履修上の注意事項 介護福祉士として核となる科目のため一切欠席しないこと
成績評価方法 筆記試験 50% 事例展開 20% 研究発表 30% で評価する
教科書 介護過程(中央法規出版)、生活支援技術、こころとからだのしくみ、障害の理解 等 参考書
予習復習のアドバイス 介護実習Ⅱと連動した科目となり、学生個々の理解度に差が出やすいため、講義外時間に学内演習としてグループ学習等を確実に行うこと。

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度(令和5年度)		時 期		通年		学 年		2	
学 科		介護福祉科		講義時間		時間割参照					
科目名		介護総合演習Ⅱ		講義曜日		時間割参照		講義回数		30	
				単位時間数		60		単位数		2	
講師名		野呂 勇介		実務経験		介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務					
講義目標		一般目標									
		介護実習Ⅱの目標を理解し、明確な自己課題のもとに実習を展開することができる。また、実習展開の計画を立案でき、実践・振り返りからを行える。									
		到達目標									
		・各事業所の法的根拠をもとに介護福祉士の役割と職域、今後にあり方を考えることができる									
		・介護福祉士として明確な根拠に基づいた生活支援を行うことができる									
		・実習において自身の課題および目標を明瞭な文章で標記でき、実習内容に即した計画を立案できる									
		・実習からの振り返りに関して学習課題、修正すべきポイントを抽出し、就業までに完成した介護福祉士を目指す									
回数	月 日	講義内容				回数	月 日	講義内容			
1		Ⅱ.1実習先発表(個人票・自己課題作成)				16		Ⅱ.2実習先発表(個人票・自己課題作成)			
2		Ⅱ.1実習先発表(個人票・自己課題作成)				17		Ⅱ.2実習先発表(個人票・自己課題作成)			
3		Ⅱ.1実習先発表(個人票・自己課題完成)				18		Ⅱ.2実習準備(実技・知識等)			
4		目標設定と実習計画作成				19		Ⅱ.2実習準備(実技・知識等)			
5		目標設定と実習計画作成				20		Ⅱ.2実習準備(実技・知識等)			
6		目標設定と実習計画作成(個人票・自己課題完成)				21		帰校日(1回目) 課題抽出・計画立案			
7		事前学習				22		帰校日(1回目) 課題抽出・計画立案			
8		事前学習(実習前日最終確認)				23		帰校日(2回目) 計画立案・実施			
9		事前学習(実習前日最終確認)				24		帰校日(2回目) 計画立案・実施			
10		帰校日(1回目) 課題抽出				25		Ⅱ.2実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)			
11		帰校日(1回目) 課題抽出				26		Ⅱ.2実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)			
12		帰校日(2回目) 計画立案				27		介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成			
13		帰校日(2回目) 計画立案				28		介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成			
14		Ⅱ.1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)				29		介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成			
15		Ⅱ.1実習後(お礼状・総合反省・実習報告書作成)				30		介護実習Ⅱ.2振り返り・事例研究作成			

講義方法 座学および個人演習・グループ演習
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 介護実習の一環としての意識を持ち、一切欠席のないことが望まれる。
成績評価方法 課題・資料の提出及び内容100% ※未提出、提出遅れ、内容不足は減点となるため、留意すること。
教科書 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 参考書
予習復習のアドバイス 介護過程と連動させての自己学習を必ず行うこと 実習後の振り返りを確実に行うこと

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	介護実習Ⅱ	実習時間	変則		
		実習曜日	終日	実習日数	46日
		総時間数	315以上	単位数	7

[一般目標]

介護実習Ⅱ.1

- ① 1) 個別的な生活支援技術を理解し、介護過程を展開(介護計画の立案)できる。
2) 利用者の生活全般を観察し、介護実践の根拠を理解する。
- ② 1) 役割を明確化し、利用者との人間関係を維持し、関連職種と適切に連携できる。
2) 介護福祉士としての自己覚知に努める。
- ③ 1) 利用者の行動を観察し、変化を捉えられ、効果判定ができる。
2) 他職種の役割を理解し、他の専門職と情報交換を行い、必要な情報を的確に得ることができる。
3) 変則勤務(夜間実習)を経験し、利用者の継続的な生活の支援を理解できる。

介護実習Ⅱ.2

- ① 1) 社会ニーズの多様化に対応したアセスメントを行っている。
2) 設定された目標の達成度を評価でき、適切な介護計画を立案し、介護の実施継続ができる
- ② 1) 実践の場で、多職種と協働できる関係を作ることができる。
2) 対象者やその家族とも良好な人間関係を保っている。
- ③ 1) インフォームドコンセント・安全管理(インシデント・感染症予防)を考慮したうえで、対象者の心身及び生活を改善する。(安全性・快適さ・自立を考慮した介護の実践)
2) 情報管理(カルテ管理・個人情報管理・守秘義務)上、適切に記録・報告を行える。

介護実習Ⅱ.1

実施時期: 6月～7月

実施時間: 160時間以上(20日間以上)

実施施設: 介護保険施設、障害者支援施設

介護実習Ⅱ.2

実施時期: 10月

実施時間: 160時間以上(20日間以上)

実施施設: 介護保険施設、障害者支援施設

成績評価方法

「指導者評価」「教員評価」の結果から学内で評価会議を実施し、履修修得を認定する。また、評価の総点の60%以上が合格となる。

記載日 令和5 年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度		2023年度		時 期		前期		学 年		2	
学 科		介護福祉科		講義時間		時間割参照					
科目名		認知症の理解Ⅱ		講義曜日		時間割参照		講義回数		15	
				単位時間数		30		単位数		2	
講師名		原田 由美子		実務経験		介護福祉士として介護老人福祉施設に9年間勤務					
講義目標		一般目標									
		認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。									
		到達目標									
		・症状から派生する生活への影響を利用者側に立ってアセスメントし、介護を支援するため の基礎的能力を身に付けることができる。 ・認知症への効果的な非薬物療法の種類と概要を説明できる。 ・認知症がある人と家族に対する、チームサポート体制について考察・発表できる。									
回数	月 日		講義内容			回数	月 日		講義内容		
1			認知症の人を取り巻く状況			11			環境づくり		
2			認知症ケアの理念と視点			12			家族への支援		
3			認知症当事者の視点から見えるもの			13			介護福祉職への支援		
4			パーソン・センタード・ケア			14			地域包括ケアシステムにおける認知症ケア		
5			アセスメントツール			15			他職種連携と協働		
6			認知症の人とのコミュニケーション			16					
7			認知症の人へのケア①			17					
8			認知症の人へのケア②			18					
9			認知症の人へのさまざまなアプローチ			19					
10			認知症の人の週末医療と介護			20					

講義方法 講義、演習、小テスト
講義で使用する機器・教材 iPad
履修上の注意事項 主体的に講義を受けること。 授業前に教科書を読むこと。
成績評価方法 期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%
教科書 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版
参考書 脳の事典
予習復習のアドバイス 分からないところはそのままにせず調べること。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	障害の理解Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤 佑美	実務経験	医療機関（総合病院、大学病院）8年、看護師として勤務		
講義目標		一般目標			
		障害のある人の地域での生活を理解し、本人だけでなく周囲の環境（家族や地域）への支援を学び、知識を習得する。			
		到達目標			
		・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働の重要性について理解できる。			
		・障害のある人を支える家族の課題について理解し、家族支援について考えることができる。			
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		オリエンテーション・シラバス説明	11		第5章2節 家族への支援・家族の介護力の評価と介護負担の軽減
2		1年次の復習	12		小テスト・まとめ
3		1年次の復習	13		小テスト・まとめ
4		第4章1節 連携と協働・地域のサポート体制	14		小テスト・まとめ
5		第4章1節 連携と協働・地域のサポート体制	15		小テスト・まとめ
6		第4章2節 連携と協働・チームアプローチ	16		
7		第4章2節 連携と協働・チームアプローチ	17		
8		第5章1節 家族への支援・家族への支援とは	18		
9		第5章1節 家族への支援・家族への支援とは	19		
10		第5章2節 家族への支援・家族の介護力の評価と介護負担の軽減	20		

講義方法 座学、演習、板書、グループワーク
講義で使用する機器・教材 教科書、iPad
履修上の注意事項 障害別生活支援技術に関連付けた学習を行うこと
成績評価方法 期末試験100%
教科書 障害の理解(中央法規出版)
参考書 人体解剖図、脳の事典
予習復習のアドバイス 他科目との関連を持った自己学習を継続すること

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	通 年	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	こころとからだのしくみⅡ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤 佑美	実務経験	医療機関(総合病院、大学病院)8年、看護師として勤務		
講義目標	一般目標 「こころとからだのしくみⅠ」の知識を基に、利用者の日常生活(身支度、食事、排泄等)を支える介護実践との関係について学ぶ。				
	到達目標 生活支援の場面に応じた、人間の心理(こころ)及び機能低下や障害(からだ)が生活に及ぼす影響 について理解できる。				
回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		オリエンテーション・シラバス説明	11		第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ
2		第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ	12		第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ
3		第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ	13		第7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ
4		第4章 身じたくに関連したこころとからだのしくみ	14		第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
5		第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ	15		第8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
6		第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ	16		
7		第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ	17		
8		第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	18		
9		第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	19		
10		第6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	20		

講義方法 iPad/板書/口頭にて行う
講義で使用する機器・教材 教科書、iPad
履修上の注意事項 介護実習・介護過程・生活支援技術関連科目のため欠席のないことが望ましい
成績評価方法 期末試験100%
教科書 こころとからだのしくみ(中央法規出版)
参考書 人体解剖図、脳の事典(成美堂出版)
予習復習のアドバイス 必ず復習を行い、知識を確実なものとし、限り期末試験の合格は困難になるため、自己学習を欠かさないこと。

記載日 令和 5年 4月 1日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年	時 期	前期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	医療的ケア	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	佐藤 佑美	実務経験	医療機関(総合病院、大学病院)、8年、看護師として勤務		
講義目標	一般目標				
	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。				
	到達目標				
	(1)医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について理解する。				
	(2)医療的ケアに関する法制度や倫理を理解する。				
(3)感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解する。					
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		オリエンテーション・シラバス説明	16		第2章2節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
2		第1章1節 医療的ケア実施の基礎・医療的ケア	17		第2章2節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
3		第1章1節 医療的ケア実施の基礎・医療的ケア	18		第2章2節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
4		第1章2節 医療的ケア実施の基礎・安全な療養生活	19		第2章2節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
5		第1章2節 医療的ケア実施の基礎・安全な療養生活	20		第3章1節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
6		第1章3節 医療的ケア実施の基礎・清潔保持と感染予防	21		第3章1節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
7		第1章3節 医療的ケア実施の基礎・清潔保持と感染予防	22		第3章1節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
8		第1章4節 医療的ケア実施の基礎・健康状態の把握	23		第3章1節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
9		第1章4節 医療的ケア実施の基礎・健康状態の把握	24		第3章1節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
10		第2章1節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	25		第3章2節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
11		第2章1節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	26		第3章3節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
12		第2章1節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	27		第3章4節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
13		第2章1節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	28		第3章5節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
14		第2章1節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	29		第3章6節 経管栄養(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
15		第2章2節 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	30		まとめ

講義方法 テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 実習室を利用して実技演習を行う。
講義で使用する機器・教材 ipad必須。演習用人体モデル使用。
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。 ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。 ・提出物の提出期限に注意すること。
成績評価方法 期末試験100%
教科書 医療的ケア(中央法規出版)
参考書 適宜持参
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読んでおく。 ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

記載日 令和 5 年 4 月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	医療的ケア(演習)	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	2
講師名	佐藤 佑美	実務経験	医療機関(総合病院、大学病院)8年、看護師として勤務		
講義目標	一般目標				
	医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。				
	到達目標				
	(1)介護福祉士が実施できる医行為について理解し、安全に実施できる。				
	(2)標準予防策を確実に実施できる。				
(3)救急蘇生法について理解し実施できる。					
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(口腔内)	13		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(胃瘻又は腸瘻による経管栄養)
2		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(口腔内)	14		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(胃瘻又は腸瘻による経管栄養)
3		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(口腔内)	15		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(胃瘻又は腸瘻による経管栄養)
4		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(口腔内)	16		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(胃瘻又は腸瘻による経管栄養)
5		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(鼻腔内)	17		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(経鼻経管栄養)
6		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(鼻腔内)	18		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(経鼻経管栄養)
7		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(鼻腔内)	19		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(経鼻経管栄養)
8		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(鼻腔内)	20		第4章2節 演習・経管栄養のケア実施の手引き(経鼻経管栄養)
9		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(気管カニューレ内部)	21		第4章3節 演習・心肺蘇生法の手引き
10		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(気管カニューレ内部)	22		第4章3節 演習・心肺蘇生法の手引き
11		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(気管カニューレ内部)	23		第4章3節 演習・心肺蘇生法の手引き
12		第4章1節 演習・喀痰吸引のケア実施の手引き(気管カニューレ内部)	24		

講義方法 テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 実習室を利用して実技演習を行う。
講義で使用する機器・教材 ipad必須。演習用人体モデル使用。
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。 ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。 ・評価表の紛失は実技試験の評価に影響する。
成績評価方法 実技試験100%（評価表紛失も含む）
教科書 医療的ケア（中央法規出版）
参考書
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読んでおく。 ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。 ・習得できるまで練習すること。

記載日 令和 5年 4月 1日